

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No. 2104

科目概要記入欄

1. 開設大学名	広島大学		科目開講 キャンパス	東千田キャンパス		
2. 科目名	正式科目名	日本経済史			クラス名	
	副題				配当年次	3 年次
					受入学年	
	旧科目名					
	学問分野	番号	23	名称	経済学	
サテライトで開講される科目の科目群			A 群	B 群		
3. 担当教員名	大畑 貴裕					
4. 単位数	2 単位		5. 開講学期	前期		
6. 開講期間 曜日・時間	平成 30 年 4 月 11 日（水）～ 平成 30 年 8 月 1 日（水） 水 曜日 18 : 00 ～ 19 : 30					
個別開講日	1 回目 4/11	2 回目 4/18	3 回目 4/25	4 回目 5/9	5 回目 5 /16	
	7 回目 5/30	8 回目 6/6	9 回目 6/13	10 回目 6/20	11 回目 6 /27	
	13 回目 7/11	14 回目 7/18	15 回目 7/25	試験日 8 /1		
7. 基礎知識の有無	①「基礎知識を必要とする科目」（概ね高校レベルの日本史の知識） 2.「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 （総授業定員）	5 人 （人）		9. 定員超過時の 選考方法	書類選考		
10. 科目内容・ 授業計画	この講義の目的は、日本経済における 17 世紀から 20 世紀後半までの諸時代（江戸時代、明治期、産業革命期、両大戦間期、戦時期、占領・復興期、高度成長期、安定成長期、バブル期）の主要な特徴を理解してもらうことである。 講義における要点は次の通りである：江戸時代に日本列島全体へ貨幣経済・市場経済が普及・浸透したが、明治期以降、このことが、欧米の諸制度・科学技術の導入と相まって、日本社会の持続的な経済成長と「資本主義」化を可能とした。そこで、この講義では、江戸時代から講義を始めたい。そして、明治期から産業革命期にかけての日本経済の近代化・工業化の概要を、確認する。次に、両大戦間期から太平洋戦争後の高度成長期は、現代日本経済の諸特徴が形成され発展した時期であったが、日本経済は幾多の困難にも直面した。そのダイナミズムの概要を説明する。最後に、高度成長終焉後の安定成長とバブル経済との特徴を確認して、講義を締めくくる。 全 15 回の授業計画案は以下の通り： 第 1 回～第 2 回・・・江戸時代、第 3 回～第 4 回・・・明治期（1868～1880 年代）、第 5 回～第 6 回・・・産業革命期（1880 年代～1910 年代）、第 7 回～第 9 回・・・両大戦間期（1910 年代～1937 年頃）、第 10 回～第 12 回：戦時期と占領・復興期（1937 年頃～1955 年頃）、第 13 回～第 14 回・・・高度成長期（1955 年頃～1973 年頃）、第 15 回・・・安定成長期とバブル期（1973 年頃～1990 年頃）。					
11. 試験・評価方法	数回の小テスト（成績評価の 30%）と期末定期試験（70%）を行う。					
12. 別途負担費用	テキストを指定しないので、特に別途負担はない。					
13. その他特記事項	毎回、レジュメを配布して、それに基づき講義を行う。					
14. サテライト科目 の社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ			可	否	
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ			可	否	